

6月から毎月第3木曜日 14:00~

歴史講座

番外編

平安時代 摩訶不思議な世界

時間軸と空間軸が交差する六条公民館

知ればしるほど平安時代が面白くなる

千年もの間、時の権力者を影で支え活動してきたという陰陽師とは一体何者か。

よく知られている1人が、安倍晴明。

最近では小説や映画のみならず、引退したフィギュアスケートの羽生結弦選手が陰陽師・安倍晴明をモチーフにした演技で金メダルを獲得したことは、ご記憶に新しいと思います。

晴明は、平安時代後期に活躍した、陰陽道の術の大家でした。

その晴明には、吉平、吉昌というふたりの息子がいたと、歴史は語ります。

彼らはいずれも晴明の跡を継ぎ、国の役所である陰陽寮に勤め、陰陽博士や天文博士になって陰陽道の発展に力を尽くしています。

晴明は、陰陽寮のトップである陰陽頭に就いていた賀茂家に弟子として入ります。入門した年齢は15、16歳だったといわれています。

当時、大人になるための儀式である元服は、だいたい12〜13歳くらいで済みますのが普通でしたが、このとき晴明はまだ元服をしていませんでした。

た。非常に遅かったわけですが、次々と現れてきました。

ところが晴明は、19歳で陰陽寮に入ります。つまり、わずか4年ほどで陰陽道の膨大な知識や、それまでにあつた術をすべてマスターしてしまつたということになります。まさに、天才としかいようがありません。

しかし、晴明の本当のすごさはそこではありません。彼はすべての術を理解したうえで、さらに術に次々と手を加え、創り変えていきました。師弟の世界においてこれは、

一步間違えれば師匠を否定するということにもつながりかねません。

晴明の師匠である賀茂氏は、陰陽道をあくまでも学問としてとらえ、実践していません。ところが、靈的に突出した力を持つていた晴明は、そこに超能力的な要素を加えて大

変革を起こしたのです。陰陽道の基本、基礎をつくりなおし、術を工夫し、すべてを変えてしまいました。

中国伝来を日本流の陰陽道につくりなおした、といつても過言ではありません。

戦国時代になると、各地に「大名」と呼ばれる有力者が

座席には限りがあります。時間厳守でタイムスリップしますので余裕を持つてお越し下さい。時間酔いされる方は酔い止め持参をお願いします。

公民館長

